

施策評価調書（主要施策別）

様式－ 1

基本目標	行き届いたサービスと高い技術力でお客様に奉仕する水道	整理番号	2－（4）
主要施策	次世代への技術の継承	施策主務課	計画課
施策の趣旨	県内水道の中核にふさわしい高い技術レベルを維持し、安全で良質なおいしい水を将来にわたってお客様へお届けできるよう、長年培ってきた県営水道の技術力と現場対応力を効果的な方法で次世代職員に継承していきます。		

I 施策を達成するための主な取組と達成状況

取組 ①	実践的な技術研修の実施		担当課	計画課		
	(取組の概要) 中堅・若手の技術職員を中心に、施設等の設計から建設までの仕事に必要な知識や、日常の管理運営業務に必要な技術などが効果的に習得できるよう、経験豊富な技術職員の知識や体験を活かした実践的な研修を実施します。					
	(27年度取組計画の概要) ベテラン職員が減少していく中で、水道の技術や震災時・漏水事故等の緊急時対応など現場対応力を確保していくために、若手中堅職員の育成に比重をおき、座学研修はもとより、体験を通じて技術などを習得する実地研修をより充実させた研修を実施します。 当初予算額 6,910千円、決算(見込)額 8,745千円					
	達成指標	技術職員（再任用職員を除く）のうち当該年度に研修を受講した延べ職員の割合	23～26年度の内部評価			
			23	24	25	26
			a	a	a	a
	達成目標 (27年度)	90%	内部評価(27年度)			
	達成実績 (27年度)	149% (=759人/508人=技術職員受講者数/技術職員数)	a: 達成している b: 概ね達成している c: 未達成だが進展している d: 進展していない			
	達成目標 (5か年)	50%	内部評価(5か年)			
	達成実績 (5か年)	149%(27年度)	a: 達成している b: 概ね達成している c: 未達成だが進展している d: 進展していない			
(評価結果の説明・分析)						
[27年度] 平成27年度の達成実績は149%となり、達成目標の90%を大きく上回る結果となりました。 その理由として、平成26年度に引き続き新規採用技術職員が大幅に増加したこと(平成26年度:34人、平成27年度:61人)や、受講者の経験レベルに合わせた段階別研修を実施したことにより、受講者が増えたことが考えられます。 さらに、若手中堅職員(主査以下)の受講割合は93%(若手受講者数/受講者数=709/759)と昨年度以上の結果(平成26年度:85%)となり、技術の継承は着実に進んでいると考えられます。						
[5か年] 達成実績は149%となり、達成目標の50%を大きく上回る結果となりました。 その理由として、 ・新規採用技術職員の大幅な増加により、受講者が増えたこと(平成25年度:28人、平成26年度:34人、平成27年度:61人)						

<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修結果アンケートの意見・要望を反映し、応用編を設けたこと（研修名：管網解析システム研修、水運用研修、送配水管工事研修Ⅳ CAD 研修）</li> <li>・同一研修を複数回開催し、受講機会を拡大したこと</li> <li>・最新技術や特殊工法を工事現場で学べる「技術講座研修」を実施したこと</li> </ul> <p>などが考えられます。</p> <p>また、送配水管工事研修や浄水施設維持管理研修及び給水装置基礎研修など、施設等の設計から建設までの仕事に必要な知識や日常の管理運営業務に必要な技術を身につけるための研修を開催し、多くの中堅・若手職員が受講したことで技術の継承は着実に進んでいると考えられます。</p>
---

<b>体験型研修施設の整備検討</b>		担当課	計画課		
(取組の概要)					
地震や事故等の非常事態において、中堅・若手の技術職員が現場対応の即戦力として活動できるようにするためには、管路の修繕やバルブ操作などの実体験が欠かせないことから、体験型施設の整備について検討します。					
(27 年度取組の概要)					
平成 25 年度に独自の施設整備を当面見送るとした方針決定により取組は終了しましたが、体験型研修については取組①の中で、水道技術が総合的に学べる東京都水道局の研修施設を利用して行っています。					
当初予算額 一千円 、 決算（見込）額 一千円					
達成指標	研修施設整備の検討状況	23～26 年度の内部評価			
		23	24	25	26
		a	b	a	—
達成目標 (27 年度)	—	内部評価（27 年度）			
達成実績 (27 年度)	—	—			
達成目標 (5 か年)	より即戦力のある職員を育成するための施設整備について検討	内部評価（5 か年）			
		a：達成している b：概ね達成している c：未達成だが進展している d：進展していない			
② 達成実績 (5 か年)	独自の施設整備は当面見送ることを決定				
(評価結果の説明・分析)					
[27 年度]					
平成 25 年度に独自の施設整備を当面見送るとした方針決定により、取組は終了しましたが、東京都水道局の体験型研修施設での研修や、日本水道協会等の団体が主催する研修へ参加させるなど、現場力向上が図れる研修に取り組みました。					
[5 か年]					
全国の 11 水道事業体を対象に、体験型研修における研修内容や、研修施設の規模等について調査を行い、これらの調査結果を踏まえ検討した結果、体験型研修施設の整備は当面見送る結論に至りました。					
(理由)					
① 研修施設を整備した場合を、現在行っている外部研修施設を利用した場合との比較で、研修費用などの経済性で劣ること。					
② 近隣の東京都、横浜市等が所有する施設の利用が、引き続き可能であること。					
体験型研修については、水道技術を総合的に学べる東京都水道局の研修施設の利用を継続し、浄水場の運転シミュレーターを用いた運転演習や、大口径耐震管の接合実習など、日進月歩の水道技術革新への対応や現場力向上が図れる研修に取り組んでいきます。					

**II 施策の成果**

成果指標	①技術研修の理解度 (研修直後に、どの程度理解できたかを、アンケート調査によって確認) ②継承技術の実践度 (研修受講から数ヵ月後に、研修内容を自己の業務にどの程度活用できているかを、アンケート調査によって確認)	23～26 年度の内部評価			
		23	24	25	26
		a	a	a	a
成果目標 (27 年度)	① 80% ② 80%	内部評価 (27 年度)			
成果実績 (27 年度)	① 82% ② 77%	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない			
成果目標 (5 か年)	① 80% ② 80%	内部評価 (5 か年)			
成果実績 (5 か年)	① 82% (27 年度) ② 77% (27 年度)	a : 成果が出ている b : 概ね成果が出ている c : 成果が小さい d : 成果が出ていない			
(評価結果の説明・分析)					
[27 年度]					
<p>「技術研修の理解度」は、82%と平成 26 年度に引き続き目標を上回る水準を維持しました。また、「継承技術の実践度」は、目標には若干届かなかったものの、前年度よりも高い実績をあげることができました。</p> <p>その理由として、「技術研修の理解度」に関しては、前年度に引き続き、研修結果アンケートに寄せられる受講者からの意見を反映させ、より質の高い講義を行ったこと、受講者の経験レベルに合わせた段階別研修を実施したこと、研修に応じて講義中に演習を取り入れたことによる理解度の向上などが考えられます。</p> <p>また、「継承技術の実践度」に関しては、研修資料をすべて読み返している職員の割合が少ないことなどから、目標には届きませんでした。事後調査アンケートによると、ほぼすべての職員が、必要箇所又は興味のある箇所を読み返していると回答していますので、概ね成果が出ていると考えられます。</p>					
[5 か年]					
<p>「技術研修の理解度」は、82%と目標を上回る結果となりました。また、「継承技術の実践度」は、目標には若干届かなかったものの、年々実績は上がっています。</p> <p>「技術研修の理解度」に関しては、各年度、研修計画を見直し、経験レベルに応じて段階別研修を設けるなど柔軟に対応したため、目標を達成できたと考えられます。</p> <p>また、「継承技術の実践度」に関しては、目標には届きませんでした。事後調査アンケートによると、研修で得た知識の定着度や研修資料及び研修内容の業務での活用機会は年々上昇しています。これは、研修結果アンケートに寄せられた意見を、翌年度以降の講義内容に反映するなど、より業務に活用できるよう工夫した結果だと考えられます。</p> <p>このことから、概ね成果が出ていると考えられます。</p> <p>今後は、さらに研修内容及び資料を精査し、より実践的な研修を実施していきます。</p>					

**III 千葉県営水道事業中期経営計画における各取組の位置付け**

<p>取組①実践的な技術研修の実施 (継続)</p> <p>引き続き、主な取組として位置付け、中堅・若手の技術職員を中心に、経験豊富な技術職員の知識や体験を活かした実践的な研修を実施します。</p> <p>取組②体験型研修施設の整備検討 (終了)</p> <p>体験型研修施設の整備は当面見送る結論に至ったことから、取組を終了します。</p>
---

内部評価機関 (経営戦略会議) における評価	(総合的な意見等) 自己評価を妥当と認める
	(特記事項) なし